

全集中の 神経外科

相川動物医療センター 宮崎 悠太

第1回 「胸腰部椎間板ヘルニア」

はじめに

犬の胸腰部椎間板ヘルニア (Thoracolumbar Intervertebral Disk Herniation: TL-IVDH) は、変性した椎間板が脊柱管内に逸脱し脊髄を圧迫して神経症状を起こす代表的な脊髄疾患である。脊椎痛、対不全麻痺/麻痺、運動失調、感覚異常、排尿異常などの臨床症状が認められ、重症例では後肢や尾の深部痛覚が消失する。

最も重要な予後因子は深部痛覚の有無であり、深部痛覚がある症例では外科治療により良好な予後が期待できる。

本稿では、相川動物医療センターより発表した TL-IVDH に関する研究報告¹⁾の紹介と、診断・治療における注意点などを解説したい。

症例情報

脊髄造影検査またはMRI検査により TL-IVDH と診断し、片側椎弓切除術と予防的造窓術を実施した 831 頭について、シグナルメント、術前の神経学的グレード(表1)、病変部位、治療結果、合併症などの情報を収集した。12ヵ月以上の追跡調査ができなかった症例は除外した。

グレード1の症例では脊椎痛が消失した場合、グレード2では運動失調の程度が主観的にみて改善した場合、グレード3～5では自力歩行が可能となった場合に成功したと定義した。

グレード	サブグレード	症 状
1		脊椎痛のみで神経学的異常を伴わない。
2		歩行可能な後肢不全麻痺。
	軽度	わずかな運動失調、姿勢反応異常が認められる。
	中等度	中等度の運動失調が認められる。
	重度	重度の運動失調があり、数歩のみ歩行可能である。
3		歩行不可能な後肢不全麻痺。
4	a	後肢完全麻痺。深部痛覚は両後肢、尾の全てで正常。
	b	後肢完全麻痺。深部痛覚は両後肢、尾のいずれかで低下または消失。
5		後肢完全麻痺。深部痛覚は両後肢、尾の全てで消失。

表1. 神経学的グレード分類